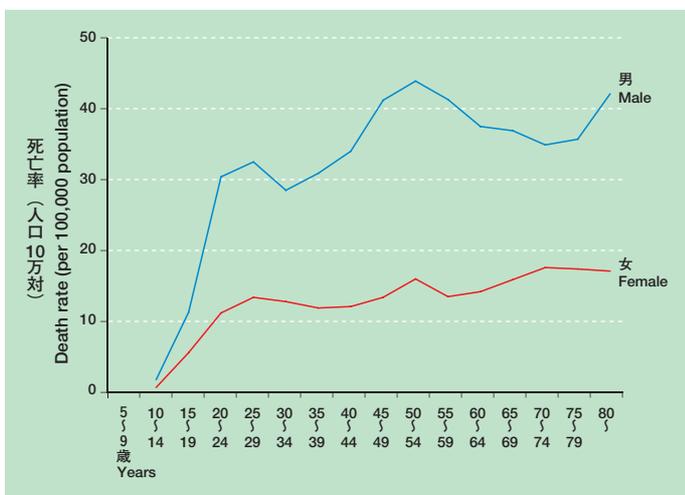


自殺の死亡率は男が高い

性別にみた自殺の死亡率の年次推移—昭和25～平成24年—
Trends in death rates for suicide by sex, 1950—2012



性・年齢階級別にみた自殺の死亡率—平成24年—
Death rates for suicide by sex and age groups, 2012



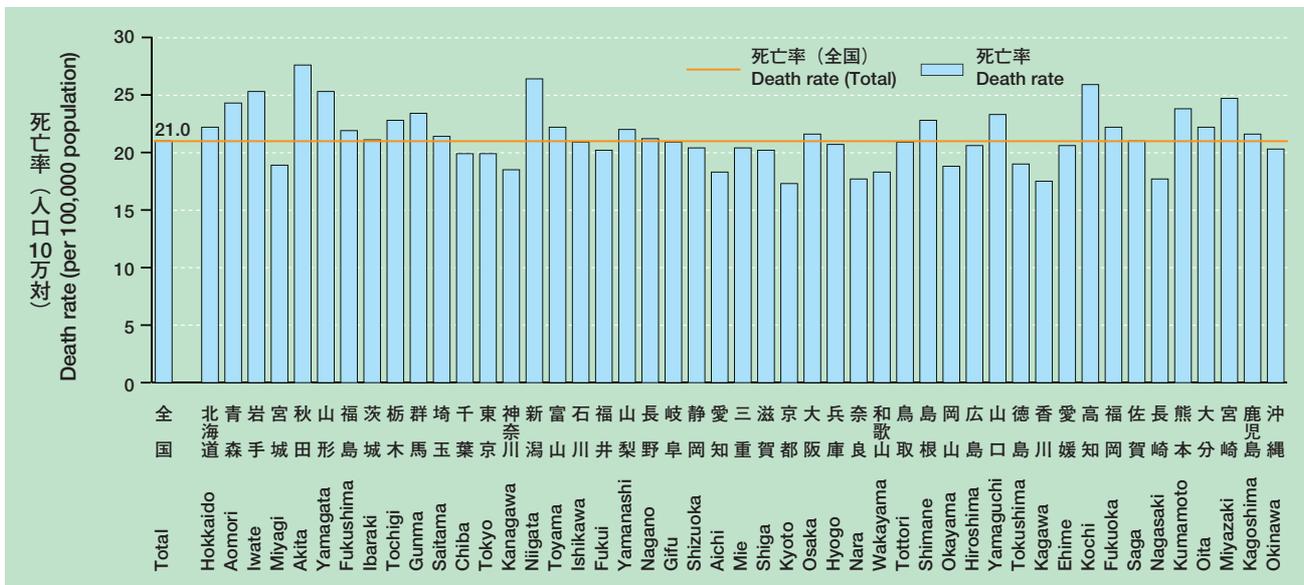
平成24年の自殺の死亡数は2万6433人、死亡率（人口10万対）は21.0で死因順位は第7位となっている。

自殺の死亡率の年次推移を男女別にみると、男が一貫して高い水準で推移しており、男女とも昭和30年代前半に高く、以後40年代前半まで低下している。その後は60年前後に高くなったのち、平成3年まで低下したが、再び平成10年に急激に上昇した。その後は高い水準が続いていたが、男は平成22年以降3年連続低下し、女は24年に低下した。

性・年齢階級別にみると、男は50～54歳が43.9、女は70～74歳が17.6と最も高くなっている。

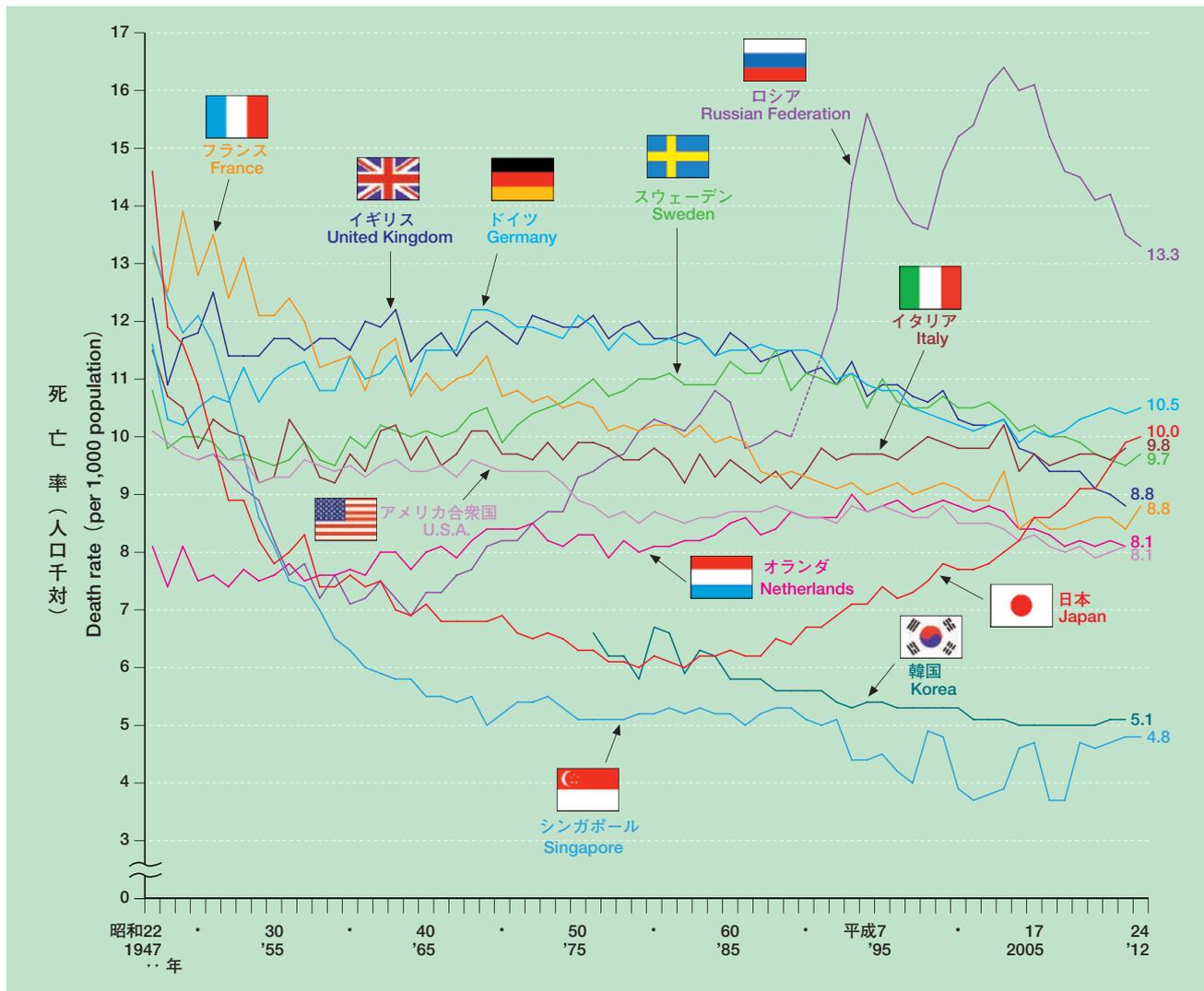
都道府県別にみると、最も高いのは秋田27.6、次いで新潟26.4、高知25.9などで、最も低いのは京都17.3、次いで香川17.5、長崎と奈良で17.7などとなっている。

都道府県別にみた自殺の死亡率—平成24年—
Death rates for suicide by prefecture, 2012



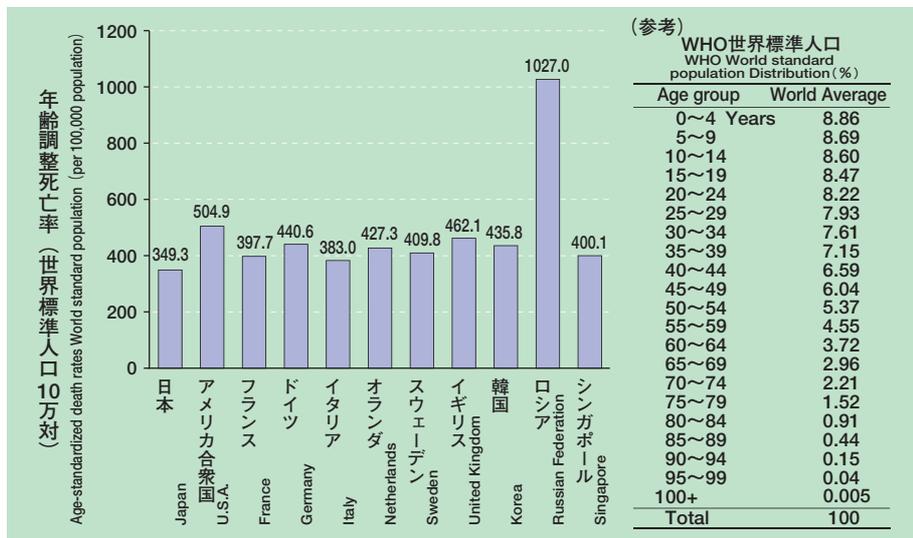
我が国の死亡率は、諸外国を上回る急速な高齢化を反映して上昇

死亡率の年次推移—諸外国との比較 1947～2012年
Death rates in selected countries, 1947—2012



注：点線は数値なし。
ドイツの1990年までは旧西ドイツの数値である。
ロシアの1990年までは旧ソビエト連邦の数値である。
資料：UN「Demographic Yearbook」

年齢調整死亡率の諸外国との比較 2008年
Age-standardized death rates selected countries, 2008



(参考) WHO世界標準人口
WHO World standard population Distribution (%)

Age group	World Average
0~4 Years	8.86
5~9	8.69
10~14	8.60
15~19	8.47
20~24	8.22
25~29	7.93
30~34	7.61
35~39	7.15
40~44	6.59
45~49	6.04
50~54	5.37
55~59	4.55
60~64	3.72
65~69	2.96
70~74	2.21
75~79	1.52
80~84	0.91
85~89	0.44
90~94	0.15
95~99	0.04
100+	0.005
Total	100

我が国の死亡率（人口千対）の年次推移を諸外国と比較すると、1947年の死亡率は諸外国と比べて高かったが、医学の進歩、公衆衛生の向上などによって急速に改善され、1965年以降は欧米諸国より低くなっていた。しかし、近年、我が国は諸外国を上回る急速な人口の高齢化を反映して上昇している。

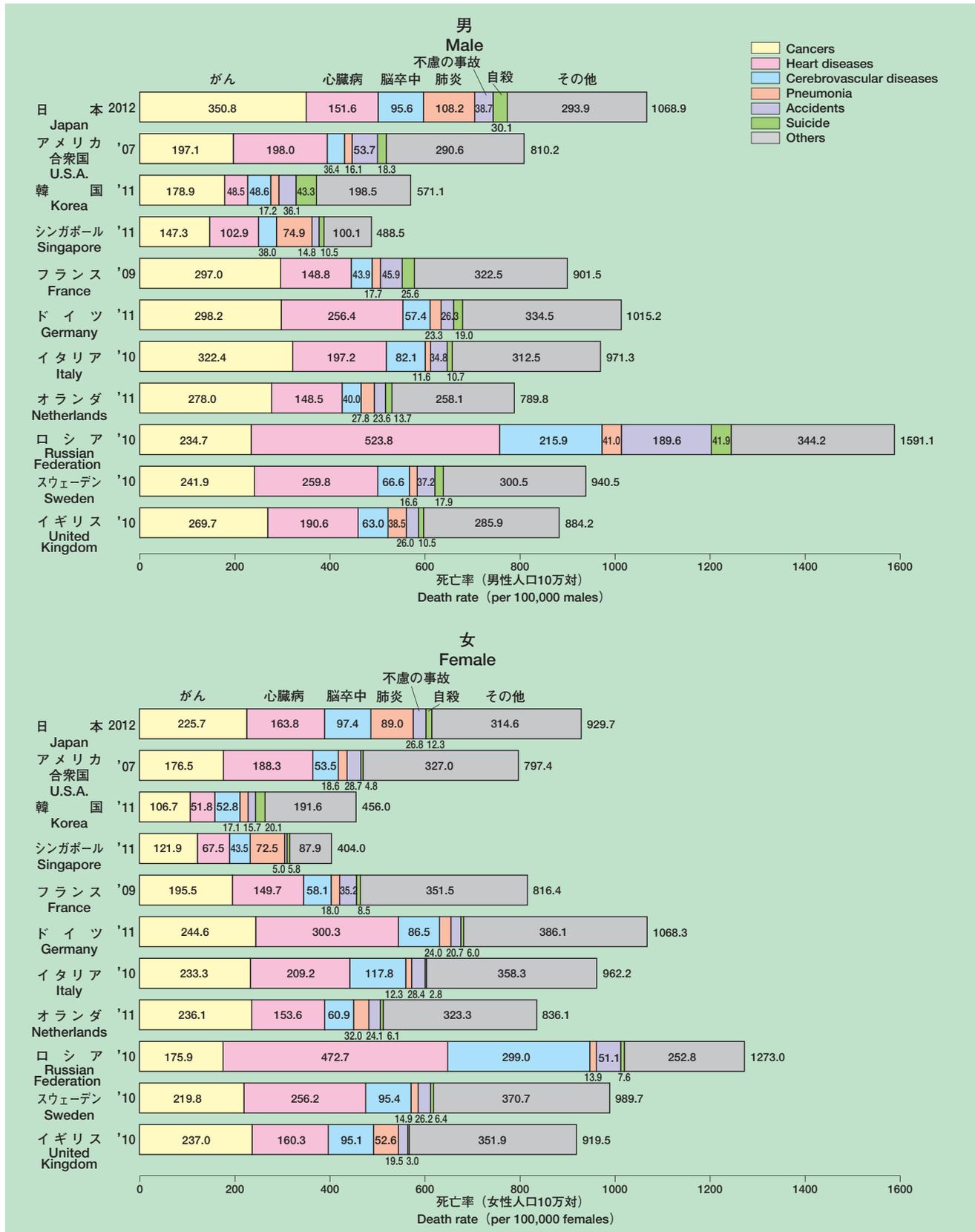
年齢構成の差を取り除いて比較するための年齢調整死亡率（世界標準人口10万対）でみると、我が国は低率国である。

注：標準人口はWHOが作成した世界標準人口による。
資料：WHO「Global burden of disease : 2008」

我が国は男女とも肺炎が、諸外国と比べて高い

性別にみた主な死因別死亡率の諸外国との比較

Death rates for leading causes of death by sex in selected countries



注：1) 心臓病及び不慮の事故は、我が国で使用している死因分類の範囲と一致しない。
 2) 死因分類についてはICD-10による分類である。ただし、シンガポールはICD-9による分類である。
 資料：WHO "Health statistics and health information systems [Mortality Database]"

我が国の性別の死亡率（人口10万対）を諸外国と比較すると、男女とも肺炎が、諸外国と比べて高くなっている。